

隨泉寺寺報

平成17年(2005年) 11月号 第423号

TEL 082-892-0217 <http://tetunari@msl.megaegg.ne.jp>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺 秋季門信徒講座

講師 浄土寺副住職 朝枝泰善師

講題 「ほとけさまの願い」

34 蓮如上人御一代記聞書
1239-7

『一 七月二十日御上洛にて、その日仰せられ候ふ。「五濁悪世のわれらこそ 金剛の信心ばかりにて ながく生死をすてはてて 自然の浄土にいたるなれ」このつぎをも御法談ありて、この二首の讃のこころをいひてきかせんとてのぼりたりと仰せ候ふなり。さて自然の浄土にいたるなり、ながく生死をへだてける、さてさてあらおもしろやおもしろやと、くれぐれ御掟ありけり。』

蓮如上人が82歳の時わざわざ京都に來られて二首のご和讃の心もちを話されました。それは阿弥陀様の本願は、苦悩の私達を救う為に誓いを起こされたのだから、まちがいなく自然の浄土に生まれる事であるとたのもしく、嬉しい事だと繰り返し繰り返し、説いてくださいました。

11月の法座予定

- 11月13日.....掃除 上平原
- 11月8日～15日.....菊花・絵画展灯茶会
- 11月14日昼席午後1時より.....秋季門信徒講座
- 11月14日夜席午後7時半より.....出張法座 高部
- 11月15日朝席午前10時より.....役員研修会 おとき
- 11月15日昼席午後1時より.....秋季門信徒講座
- 12月2日午後5時より.....門信徒会本部役員会・忘年会



☆お家の報恩講日程

ご門徒の皆さんのおうちのお通りの報恩講をお参りしています。すでに瀬野川団地、鴨の集団地、中須賀団地、モソライ、望ヶ丘団地はお参りいたしました。

- 11月1・2日 桑原地区 11月3～5日 長者原東
- 11月7～9日 長者原西 11月10～18日 出口宮原
- 11月19～23日 荒野 11月24～28日 井原
- 12月1～6日 上平原 12月7～12日下平原 12月16・17日 高部 の予定です。

都合によっては変更になるかもしれませんが、よろしくお願い致します。

☆役員研修会 11月15日(木) 午前10時～

役員研修会を開催します。せっかく役員になられたのですから、この機会に少し作法とか、お仏壇の荘厳を勉強してみませんか？今回の御講師は勤式や作法に詳しい先生です。15日の朝席を役員研修会にしています。日頃の不審や疑問なことがあれば尋ねてください。出来ればお仏壇の荘厳を少し解説していただこうと思っています。お昼も簡単なものを用意しています。また役員以外の方も誘い合わせて参加してください。



☆菊花展・絵画展



11月の8日から菊花展と絵画展を開催します。去年のように井原地区の同好の方が丹精込めた菊の花を展示してくださいませ。菊を育てるといのは大変な事ですね。一年中かかっているように思えます。土づくりから始まって、苗を取って、鉢に植え替えて、消毒やら肥料をやって、みずやりだけでも大変です。一年間付き切りといってもいいかもしれません。楽しみに観賞させてもらいたいと思います。



絵も毎年新しい作品が展示されるので、たのしみです。絵とか絵手紙というものは、自分が出てくるので面白いですね。優しい人は優しさが出てくるし、几帳面な人は几帳面な作風の絵です。絵画を描かれる方はどなたでも結構ですから展示してください。

誘い合わせて観に来てください。

☆御礼

永代経懇志	金	貳拾萬円	福永	福治殿	故	福永	直彦様	特別永代経志として
永代経懇志	金	拾萬円	鍋本	暁秀殿	故	鍋本	ナミヨ様	特別永代経志として

☆御礼

門信徒会へ	金	一封	福永	福治殿	故	福永	直彦様	香典返しとして
-------	---	----	----	-----	---	----	-----	---------

11月 カレンダーの言葉

一粒のいちょうの虫へ あんな見事な 大木になる力がかくされている

東井 義雄



中学枚では、農園の収益で、全校生にリンゴのお年玉をやることになったそうだ、と聞いてきた先生がありました。

中学枚の兄さんや姉さんが、お年玉をもらって帰るのに、小学生にお年玉がない、ということは、学校としても耐えられないことです。でも、小学校には、お年玉のやれるような予算は、どこにもありません。お金を使わずにやれるお年玉はないものかと、みんなで考えるのですが、みんな、どうしても、お金につながってしまいます。

いくら考えても、いい思案が浮かびあがってくれません。

みんな困ってしまいました。困り果てて、ふと、職員室の窓から目を運動場に向けたとき、私はハッとしました。運動場の大きいちょうが、何か叫んでいてくれる気がしたのです。

私は、思わず叫びました。

「いちょうの実をやろう！.いちょうの実がある！」

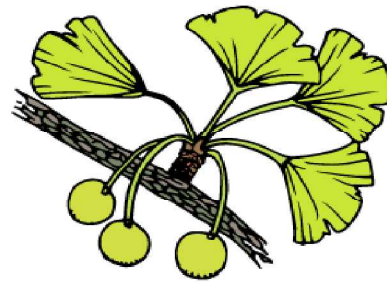
職員の皆さんも「それはすばらしい！」と喜んでくれました。「いちょうの実に、担任が、子どもの似顔絵を描いてやってはどうでしょう」と言ってくれる職員がありました。

「それは、また、すばらしい！」と、今度は、私が叫びました。

「担任が、1人1人の子どもに、短い願いのことばを書いて、いちょうの実に、添えてやってはどうでしょうか」と言ってくれる職員がありました。

「それは、いよいよ、すばらしい！いちょうの実が生きてくる。ついでに、校長のことばも添えさせてください」と頼みました。「校庭の、天

にそびえる大きいちょうも、昔は、一粒のいちょうの実だったんだ。一粒のいちょうの



実に、あんなすばらしいおおいちょうになる力がかくれていたんだ。君の、あなたの体の中にも、素晴らしい未来を作る、不思議な力がこもっているんだよ。それが、芽がでたい、芽がでたいと、ウズウズしているんだ。めでたい、めでたいと、叫んでいるんだ。今年は、その芽を、ぜんぶに伸ばしてみせる年にしようではないか。さあ、どんなすばらしい芽を出させてみせてくれるのか、楽しみではないか」ということばを、添えてもらうことにしました。

子どもの似顔を描いたいちょうの実と、担任のことばと、校長のことばを、1つの封筒に入れてもらいました。封筒には、「めでたくて、めでたくてしかたのない袋」と、印刷してもらいました。

「家へ帰ってから、お家の皆さんと、いっしょに開いてください」と、添え書きをしてもらいました。

元旦の「新年おめでとうの会」のとき、担任から、一人一人に渡してもらいました。

子どもたちは、大喜びでした。

「あめがはいっているらしいぞ！」という子がありました。太陽にすかしてみても「丈夫になるように、肝油かもしれない」という子もありました。みんな、早く、中味が見たくて、とんで帰りました。

いちょうの実のお年玉は、すごい反響を呼び起こしました。ひっきりなしに電話がかかってきました。葉書や手紙がきました。「わたしが植えたいちょうの木が、こんなすばらしいお年玉を実らせてくれるなんて....」と、寝たきりのお年寄りからまで手紙がきました。

いちょうの実は、地に植えられたり、借家住まいの家では鉢に植えられました。

里親を転々と代えられ、また近く里親を代わることになっている如代子ちゃんという里子の女の子は、「わたしは、いちょうの実を植えてやることはできません。それで、腰さげにしました。運動場の大きいちょうだって、いろいろいっぱい、つらいことになって、あんなに立派になったのです。わたしも、悲しいことになって、くじけそうになったら、大きいちょうのことを考えてがんばります」と、その腰さげを、私に見せに来てくれました。

いちょうの実のお年玉は、親ごさん方に、お年玉というもののあり方を厳しく問いかけてくれました。

